

「平和憲法を守り、活かす」

東村山・生活者ネットワークは、子どもの権利条約を作るため、子ども・若者会議を継続して開いています。今回は、絶対に始めてはいけない「戦争」をテーマに20代の若者、40代の子育て中の方々に寄稿して頂きました。同時代を生きる、子ども・若者の声を伝える場を、これからも創っていきます。

■ S.O. 40代 多摩湖町在住

2023年10月までガザ地区では約110万人の子ども達が暮らしていました。激しさをます爆撃により、一万七千人以上の子どもが死亡しているといわれています。ガザでは凍えて亡くなる、飢えによって命を落とす、爆撃で殺されるなど多くの赤ちゃんが死んでいます。

ひとつの担架に何人もの子どもの遺体をのせている写真を見ました。親の遺体にすぎず子ども、子どもの遺体を抱きしめる親の写真を何度も見ました。知りたくない、見たくない想像を絶する現実です。

私には6歳の子ともがいます。ガザで亡くなった子どもたちと同じ、子どもです。一万七千人以上というのは東村山市の小中学生全員より多い数です。

戦争を二度と起こさないためには、平和について考え、学ぶ機会を広げる教育が非常に大事です。私自身も、学校の授業や「はだしのゲン」、「火垂るの墓」から、平和の尊さを学びました。小学6年生の校外学習で全生園を訪れた時、級友が「戦時中、全生園の方は戦争に行ったのか」と質問をしたところ、その答えが「行けなかった」で、私は「行けなくてよかった」と思いましたが、「戦争に行けず悔しかった」と話され、大きな衝撃を受けました。戦争には、その時代の価値観が大きく関係していると感じます。

私はいかなる虐殺行為も許しません。子どもの命を奪う行為を、イスラエルによる植民地主義を許しません。

日頃の生活や教育の中で歴史、戦争の悲惨な経験を語り継ぎ、戦争を正当化しなければ、戦争のない世界を築く礎になるのではないのでしょうか。

ガザだけではなくありません。比較的入りやすい西岸地区でもイスラエルによる銃撃、不当逮捕は小さな子どもにも及んでいます。パレスチナの望みは停戦、そして植民地主義からの解放です。

停戦協定を破り、イスラエルによるガザ攻撃が再び行われています。

2024年3月東村山市議会でも一刻も早い平和構築をするための外交努力を、日本政府に求める意見書が採択されました。

私は2000年夏、ピースボートに乗船し、地球大学プログラム1期生としてガザを訪れ、1日だけホームステイをしました。現地の青年らと雑魚寝をし、早朝、唄声で目覚めました。彼らは肩を寄せ合い、コーランのような唄を唄っていました。その儼かな朝

世界中が声を上げて止めなければなりません。考えたり、話したり、少しでも行動していきましょう。

戦争は遠くの国のことのように見えるけれど、実は身近なところから始まる。SNSで外国人が犯罪を行なっているなどの真偽不明の情報を見て、なんとなく外国人って迷惑な人たちだなと思っていないだろうか。実際に会ったこともない人を恐れていないだろうか。情報の真偽を確かめず、自分たちの暮らしを脅かす外国人は排除しなければなら



の光景は、忘れられず心に残っています。

2011年冬、初の個展を開催。ピースボートの船旅で撮り溜めた写真を絵に描き起こし展示しました。その中の1点が、あの時交流したガザの青年達の絵でした。

今年はピースボート乗船から25年の節目。残念ながら、パレスチナの情勢は2023年10月から悪化しています。自分が描いたガザの青年達の目は、私を真っ直ぐに見つめ、ずっと訴え続けています。

無関心が戦争を引き起こします。どうか、ご自身が平和な世界を生きるために、虐殺をやめるよう、声を上げ続けてください。

■ K.S. 40代 久米川町在住

戦争は遠くの国のことのように見えるけれど、実は身近なところから始まる。SNSで外国人が犯罪を行なっているなどの真偽不明の情報を見て、なんとなく外国人って迷惑な人たちだなと思っていないだろうか。実際に会ったこともない人を恐れていないだろうか。情報の真偽を確かめず、自分たちの暮らしを脅かす外国人は排除しなければなら

ならない、向こうが悪いのだから仕方ない、攻撃される前に攻撃しなくてはいけないと集団で思い込んでいくことが戦争への道だ。好きな国の人を殺したりはできないので、その国を嫌になるような情報が流されていく。SNSは真偽を問わずアクセス数が上がれば収入になる仕組みだ。デマも何万回も流れば本当だと思ふ人が出てくる。

スマホから顔をあげて、人と話をしよう。

■ 東村山・生活者ネットワークより
対話の不足と無関心！

平和と反戦、核廃絶を訴え、ロシアのウクライナ侵攻に特派派遣など、世界平和への働きかけに期待していた私たちは、ローマ教皇の訃報に接し希望の光が消えていく思い。意見・立場の違いや対立は武力では真の解決にはならない。融和と寛容、共存からしか平和は生まれない。今の民主主義の揺らぎは対話の不足と無関心。このままでは戦争をする国に突き進んでしまう危うさをはらんでいないだろうか。

戦後80年間戦争のない国を継続できたのは、憲法の基本的人権の尊重、国民主権、平和主義・戦争放棄の三大原則があったから。平和憲法を変える動きが活発になつていく。改憲の本丸は、緊急事態条項の加筆。

緊急事態宣言と緊急事態条項は全く別物なのに、混同し誘導されてはいないだろうか。緊急事態条項の名称を変えればいい等と誤った発言に騙されてはいけない。国民は政治を監視し、監督する責任がある。

今の社会を変え、希望や生きがいを持てる社会にするために選挙はある。選挙に行かないことは、現状のままを認めること。生活者ネットワークが目指す政治は、対話を基本とした立憲民主主義。外交も対話による平和解決を私たちは望む。

今後も変わらずに日本国憲法の重要性を伝えていきます。
(白石えつ子)

